

# 日本気象学会

## 昭和52年春季大会

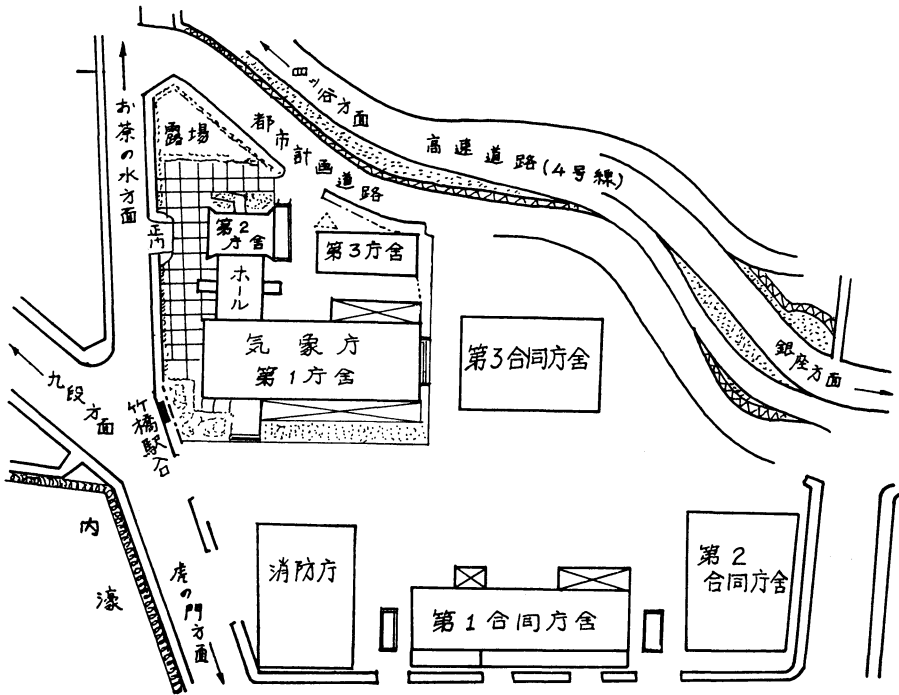
会期：昭和52年5月24日（火），25日（水），26日（木）

会場：気象庁（東京都千代田区大手町 1-3-4）

### 目 次

大会行事予定表	199
総会次第	199
研究発表内容一覧	200
研究発表題目	201~206

### 会場案内図



（道順）地下鉄東西線竹橋下車がもっとも便利です。

\* 本大会の「大会参加申込書」用紙は「講演予稿集」に綴じ込まれていますので、予め記入の上、忘れずに当日会場受付までご持参ください（当日、会場受付には若干部しか用意してありません）

## 大会行事予定表

1. 会場：気象庁（東京都千代田区大手町 1-3-4）  
     第1会場：講堂（予定）  
     第2会場：第1会議室（予定）  
     第3会場：気象大学校研修教室（予定）
2. 会期：5月24日（火）、25日（水）、26日（木）
3. 行事

行事	
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月24日（火）09：00～12：30
〃	〃 13：30～17：00
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月25日（水）09：00～12：00
シンポジウム（第1会場）	〃 13：00～15：00
総会（〃）	〃 15：00～
学会賞藤原賞記念講演（〃）	〃 ～17：00
懇親会	〃 17：30～
大会（研究発表）（第1，第2，第3会場）	5月26日（木）09：00～12：30
〃	〃 13：30～17：00

大会委員長 山本 孜

## 総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 昭和50年度事業経過報告
7. 〃 会計決算報告
8. 〃 会計監査報告
9. 昭和52年度予算案・事業計画案の審議
10. その他
11. 気象学会賞受賞記念講演
12. 藤原賞受賞記念講演

## 昭和52年春季大会

( ): 講演番号, — — : 座長

	第 1 会 場		第 2 会 場		第 3 会 場	
5 月 24日 (火)	09.00～ 12.30	大気汚染 (101～113) —伊藤昭三—	09.00～ 12.30	大気大循環・力学 (201～213) —瓜生道也—	09.00～ 12.30	大気放射 (301～313) —村井潔三—
	13.30～ 17.00	境界層 (114～125) —根本 茂—	13.30～ 15.50 15.50～ 17.00	大循環モデル・計算ス キーム (214～221) —岡村 存— 応用気象 (222～225) —三寺光雄—	13.30～ 17.00	エーロゾル (314～324) —矢野 直—
5 月 25日 (水)	09.00～ 12.00	境界層 (126～136) —文字信貴—	09.00～ 12.00	雨・天気予報 (226～236) —矢花和一—	09.00～ 12.00	雲物理・大気化学 (325～336) —新田武彦—
	13.00～ 15.00 15.00～ 17.00	シンポジウム  総会				
5 月 26日 (木)	09.00～ 12.30	境界層・気団変質 (137～149) —横山長之—	09.00～ 12.30	積 雲 (237～247) —門脇俊一郎—	09.00～ 12.30	気 候 (237～347) —根本順吉—
	13.30～ 14.30	境界層・気団変質 (150～153) —二宮洸三—	13.30～ 16.30	熱帯気象・気象衛星 (248～256) —山岬正紀—	13.30～ 16.00	測器・観測 (346～355) —佐橋 謙—
	14.30～ 14.45	気象教育 (154) —河村 武—				

\* 大会第3日14時45分～17時00分、第1会場において、気象教育のセッションに続いて「気象教育に関するミーティング」を行ないます。多数の会員の参加をお願いします。

## シンポジウム「境界層の構造」

1. 日時 大会第2日(25日)
2. 会場 第1会場
3. 座長 片山 昭(気象大学校)
4. 話題提供者

斎藤直輔(気研・予報): マクロに見た境界層  
花房龍男(気研・物理): 境界層の観測

## 講演発表者へのお願い

1. スライドのマウントに番号をつけること
2. スライドの上下を揃え、分かるようにすること
3. スライドの標準枚数は6～8枚です。
4. 持ち時間(15分～20分)を超過したときは中止していただくことがあります。

## 研究発表題目

## 大会第1日(5月24日) 9時00分~12時30分

## 第1会場 大気汚染 座長 伊藤昭三

101. 山中芳樹・高居貴美・神山恵三(東農工大・環境保護): 樹木から発散されるテルペン類と気象との関係
102. 川村 清・伏見克彦(気研・化学): 大気中の極低濃度  $\text{SO}_2$  用自動測定器の試作
103. 藤田敏夫(気研・予報)・天谷和夫(東工試): 二酸化窒素一斉測定の結果について
104. 鶴田治雄(横浜市公害研)・鈴木英世・佐藤静雄(川崎市公害研): 神奈川東部上空および相模湾・伊豆諸島海域周辺におけるフロンガス濃度
105. 大喜多敏一(北大・工)・太田幸雄(公衆衛生院): 大気境界層内における各種物質の高度分布
106. 大喜多敏一(北大・工)・太田幸雄・原 宏(国立公衆衛生院): 筑波山頂におけるガス・エアロゾル成分及び雲水中の成分の変動と気象因子との関係について
107. 成瀬 弘(気研・応用): 工業地域における雲核の測定
108. 内藤恵吉・田端 功・高橋克己・横田良夫・林竜美(気研・衛星): ライダーによる大気下層内ダスト層の観測——とくに最大濃度層と日射
109. 久保次郎・三寺光雄・木村富士男(気研・応用): 火煙源ブルーム中の  $\text{NO}$  と  $\text{NO}_2$  濃度の関係について
110. 広尾 純・塩沢清茂(早大・理工): 大気汚染シミュレーションのための風系の推定
111. 岡本真一・塩沢清茂(早大・理工): 拡散モデルによる大気汚染シミュレーション(第9報) — 準定常ブルームモデル
112. 吉門 洋・横山長之(公資研): ボックスモデルによる大気汚染濃度予測
113. 伊藤昭三・松崎純枝(大阪府大・工): 滑走中の航空機からの排ガスの拡散

## 第2会場 大気大循環・力学 座長 瓜生道也

201. 藤井盛澄(大阪電通大): 冬季の亜熱帯ジェット流の大規模変位に関する統計的調査
202. 大井正道・杉谷康雄(大阪教育大): 帯状流地形性擾乱の孤独波生成について(第6報) — 2層モデル

## ルー

203. 百瀬晴行(東大・理): 1967年3月中旬に起きたプロッキング現象について
204. 戸松喜一(気研・予報): エネルギーの nonlinear cascade
205. 村松久史(気研・高物): 成層圏における水蒸気の収支
206. 木田秀次・桜井 徹(気研・予報)・片山 昭(気象大): 海洋表面温度の季節変化について—グローバルな解析—
207. 渡辺 明(気象庁・電計): 気圧摂動の線型安定
208. 時岡達志(気研・予報): 季節変化する熱源によって成層圏・中間圏に作られる zonal mean motion
209. 宮原三郎(九大・理): 大気潮汐波による平均流加速
210. 松野太郎・中村健治(東大・理): ラグランジュ的平均子午面循環の面からみた成層圏突然昇温
211. 廣田 勇・関口和夫(京大・理): 赤道中間圏半年周期振動とプラネタリー波
212. 久保田効(気象庁・電計): 陸面からの顕熱・潜熱流束がモデル大気に及ぼす影響について
213. 住 明正(気象庁・電計): 4次元同化作用について

## 第3会場 大気放射 座長 村井潔三

301. 一木明紀(高層气象台): オゾン量の変動が大気の混濁係数算出に及ぼす影響
302. 大越延夫(高層气象台): Fuego 火山爆発後のオゾン分光観測ダスト項 ( $\delta - \delta'$ ) の急激な変化について
303. 村井潔三・小林正治・後藤良三・山内豊太郎(気研・高物): 日射の分光測定による大気汚染の監視法
304. 佐藤隆夫(長崎大): 日照権侵害率の算定法(Ⅰ)
305. 佐藤隆夫(長崎大): 火星と地球の一次、二次散乱の各自及び相互の比較(Ⅰ)
306. 高野精秀, 田中正之(東北大・理): 無限長円柱による光の散乱(Ⅰ)
307. 森山 茂(日大・習志野): 対流圏・成層圏エアロゾルの増加の及ぼす各緯度における放射効果と雲

の影響 (I)

308. 会田 勝(横浜国大・教育): 積雲群による日射の反射
309. 青木忠生(東北大・理): 温度依存を含む透過関数のパラメタライゼーションと不均質大気への応用
310. 青木忠生(東北大・理): バンドモデルの改良—Semi-direct random band model の開発
311. 山内 恭・青木忠生・田中正之(東北大・理):

CO<sub>2</sub> 近赤外帯の吸収特性(IV)—透過関数, band model について—

312. 嘉納宗清・宮内正厚・鈴木 正(気研・高物): 大気放射の分光観測に基づく大気下層の気温垂直分布の推定について
313. 井沢龍夫(気研・台風)・井上豊志郎(気象衛星センター): VTPR データによる温度分布—AMTEX '75 (その1・海面水温)

## 大会第1日(5月24日) 13時30分~17時00分

### 第1会場 境界層 座長 根本 茂

114. 伊藤昭三(大阪府大・工): 横風中での乱流ジェットの上昇高
115. 木村竜治(東大・海洋研): 海陸風循環の素過程について(線形理論)
116. 長野美文(気象庁・電計)・菊池幸雄(気象庁・電計)・荒川正一(気象大学校)・白崎航一(気象大学校): 南関東海陸風の数値シミュレーション(第3報)
117. 大河内康正(九大・理): 海陸風に及ぼす山岳の熱的効果について
118. 吉門 洋(公資研): 境界層における慣性効果について(II)
119. 尾原信雄・大西外史(防衛大): 冬季の海陸風について
120. 角田道生・林 隆(原研): 二地点で観測した海風時逆転
121. 舟田久之(東京管区): 富山における海風の立体構造について
122. 竹内衛夫(気研・予報): 非断熱境界層における流れについて
123. 横山長之・蒲生 稔・山本 晋(公資研): 大気境界層への KEYPS 式の拡張—特に安定成層の場合—
124. 横山長之・蒲生 稔・山本 晋(公資研): 大気境界層中の乱流のモデル
125. 近藤純正・笹野泰弘(東北大・理): 大気・海洋結合境界層モデル—海洋混合層の数値モデル化(完結報)—

### 第2会場 大循環モデル・計算スキーム

座長 岡村 存

214. 清水喜允(気象庁・電計): 最適内挿と変分調節に

よる解析スキーム

215. 八木正允・岡村 存(気研・予報): ネスティングの方法についてのテスト
216. 増田善信(気象庁・電計): 低周波の波を維持し高周波の波をダンプさせる時間積分法
217. 工藤達也(気象庁・電計): セミインプリシット化した北半球プリミティブモデルによる数値予報について
218. 中村 一(東大・理): 大気大循環モデル—傾斜のゆるい山と壁状の山—
219. 中村 一(東大・理): 温位  $\theta$  と  $\theta^2$  を保存する  $\sigma$  座標系の差分方程式系
220. 鬼頭昭雄(京大・理): 大気の時季変化シミュレーションのためのスペクトル・モデル—時間成分のスペクトルへの展開—
221. 岩嶋樹也(京大・理): 森山 茂(日大・生産工)・山元龍三郎(京大・理): 火星の大気大循環スペクトルモデル(II)

### 応用気象 座長 三寺 光雄

222. 靱山政子: 最近における日・英・米3国の死亡の時季パターンの比較
223. 山本 栄・竹内寿一郎(慶大・工)・靱山政子: 死亡時系列データの解析法—非定常ポアソン過程タイプ—
224. 赤井清康: 室内平均湿度関係諸量の変化について
225. 土屋 巖・松戸 修(公害研): 環境調査のためのリモートセンシング資料の解析(I)—水田温水池の効果調査—

### 第3会場 エーロゾル 座長 矢野 直

314. 松原広司(東京管区)・田中豊頭(気研・物理): 富士山頂におけるエーロゾル粒子(0.5 $\mu$ 以上)の濃度変動—氷晶核と大粒子の個数濃度の関係—

315. 田中豊顕(気研・物理)・松原広司(東京管区):自然氷晶核の表面の性状—水溶性成分の存在—
316. 池上宏一(名大・水圏研)・井上治郎(京大・防災研)・小野 晃(気研・物理)・樋口敬二(名大・水圏研):ヒマラヤにおける エーロゾル粒子の性状について
317. 小野 晃(気研・物理):海洋性気団中におけるエーロゾル粒子の性状特性
318. 矢野 直・山路 勲・前橋紀恵子(気研・応用)・藤村 満・橋本芳一(慶応大):小笠原諸島父島における大気エーロゾル粒子の元素別粒径分布とその特性について
319. 伊藤朋之(気研・物理):小笠原海域のサブミクロンエーロゾルの粒径分布について(バックグラウンドエーロゾルの研究5)
320. 遠藤辰雄・菊地勝弘(北大・理):三陸沿岸海上でのエーロゾルと巨大海塩核の測定(海上へ流出したエーロゾルの消滅過程の研究, その1)
321. 遠藤辰雄・長利富勝(北大・理):相模湾及びその南方洋上でのエーロゾルと巨大海塩核の測定(海上へ流出したエーロゾルの消滅過程の研究, その2)
322. 北川信一郎・舟木数樹(埼玉大・工)・池上三和子・金沢五寿雄・三崎六郎(気研・高物)・中谷 茂(電総研)・角田智良・増田純夫・関川公成・望月 定(東理大・理)・首藤克彦(東理大・理工):サブミクロン・エーロゾルのメソスケール分布と変動の研究(第2報)
323. 池辺幸正・小谷 誠(名大・工):エイトケン粒子の揮発特性(I)
324. 朝来野国彦(都公害研):エーロゾルによる  $O_3$  の消滅現象

## 大会第2日(5月25日) 9時00分~12時00分

### 第1会場 境界層 座長 文字 信 貴

126. 小林博和・千秋鋭夫(電中研):風速のスカラ平均とベクトル平均について
127. 森 征洋(香大・教育)・光田 寧(京大・防災研):風速変動の長周期成分について(V)
128. 岩谷祥美(日大・生産工):風速変動の横方向の空間スペクトルについて(II)
129. 内藤玄一(防災センター):運動量と顕熱のクロス・スペクトル
130. 米谷俊彦(岡山大・農生研):植物群落上の乱流特性について(V)
131. 浅井東洋(京大・理)・光田 寧(京大・防災):接地気層における渦度とその輸送について
132. 文字信貴・伊藤昭三(大阪府大・工)・水間満郎(京大・原子炉):顕熱輸送について
133. 安達隆史(日本気象協会・研):放射収量と風速の巾乗の比とモーニン・オブコフ長との関係
134. 蒲生 稔・横山長之(公資研):混合層の発達と乱流統計量の日変化について
135. 千秋鋭夫・西宮 昌(電中研):Pasquill 安定度について
136. 林 正康(公資研):上層風の推定

### 第2会場 雨・天気予報 座長 矢 花 和 一

226. 近藤洋輝(気象庁・電計):メソ擾乱におよぼす大規模場の影響について
227. 吉住禎夫(気研・予報):梅雨前線帯上部における2.5日周期のじょう乱
228. 武田栄一・菊地勝弘(北大・理):北海道の集中豪雨—1970年9月17日の胆振中部豪雨—
229. 藤原美幸・柳沢善次・柳瀬利子・神林慶子(気研・台風):梅雨前線に伴った地形性降雨のレーダ観測について
230. 竹永一雄(高知地台):局地豪雨の気候学的考察
231. 後町幸雄・高杉年且・枝川尚資(京大・防災研):台風7617による四国, 近畿, 中部地方の豪雨
232. 保科正男・立平良三(気象庁・予報):アメダス資料から見た降雨特性
233. 牧野義久・立平良三・俣野 誠(気象庁・予報):電算機による雨量の短時間予報
234. 此田 進・立平良三(気象庁・予報):MOS 方式による雷雨予想
235. 山口勝輔・吉田作松(気象協会・研):MOS 手法による流域雨量の予測(その1)
236. 広瀬元孝(気研・予報):北半球500MB高度場の長期予報

第3会場 雲物理・大気化学 座長 権田 武彦

325. 権田武彦(東理大・理工): 兎毛上に成長する氷の結晶の形態変化  
 326. 権田武彦・山崎利夫(東理大・理工): レプリカ法による氷晶の採集とその立体構造の観察  
 327. 高橋忠司(埼玉大・教育): 氷晶に付着し凍結した微水滴の成長  
 328. 上田 博・菊地勝弘(北大・理): 立体樹枝状結晶の二次的な枝の成長について  
 329. 菊地勝弘・孫野長治(北大・理): カナダ北極圏における雪結晶の観測 (序報)  
 330. 佐藤和秀(京大・防災研)・樋口敬二・加藤喜久雄(名大・水圏研): 南極みずほ高原における降雪と酸素同位体組成  
 331. 磯野謙治・石坂 隆・増沢敏行・岡田菊夫・和田

- 誠・武田 喬(名大・水圏研): 降水中の化学成分に関する観測—尾鷲における降雨を中心にして  
 332. 角皆静男・品川高儀(北大・水): 冬季モンスーンによって輸送される化学物質  
 333. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・猿橋勝子・金沢照子(気研・化学): 降水(東京)のpHについて  
 334. 鈴木 款・杉村行勇(気研・化学)・三宅泰雄(地球化学研究協会): 東京における降水中のセレン含量とその化学型について  
 335. 三宅泰雄(地球化学研究協会)・猿橋勝子・金沢照子・葛城幸雄(気研・化学): 南半球における放射性物質降下の地域的変動  
 336. 望月 定(東理大・理): 半導体放射線検出器を用いた地表面からのラドン ( $^{222}\text{Rn}$ ) 発散率の測定

大会第3日(5月26日) 9時00分~12時30分

第1会場 境界層・気団変質

座長 横山 長之(公資研)

137. 山本 晋・蒲生 稔・横山長之(公資研): 飛行機による混合層内の対流構造の観測  
 138. 蒲生 稔・山本 晋・横山長之・吉門 洋(公資研): 海陸境界面上に発達する内部境界層の飛行機観測(その5)  
 139. 伊藤芳樹(京大・理)・光田 寧(京大・防災研): Sodarによる大気境界層の観測  
 140. 田中 浩・秋田錦一郎・増田悦久・福島 圓(電波研): 大気境界層中の微気圧波動の観測(Ⅰ)  
 141. 山本 晋・林 正康(公資研): 赤外線気温垂直分布測定装置による大気境界層の観測  
 142. 大塚 伸・藤田敏夫・本多庸浩・魚津 博・花房龍男・藤谷徳之助(気象研): 塔と係留気球による大気境界層の比較観測  
 143. 北林興二(公資研): 山岳風上側よどみ流について  
 144. 岡部義信・駒林理一(電中研): 上空が安定な場合の温度境界層についての風洞実験  
 145. 三沢信彦・石川浩治・木村竜治(東大・海洋研): ヒートアイランドによって生じるヒートプレュームの風洞実験  
 146. 近藤純正(東北大・理): AMTEX で得た海面フラックスの直接測定とバルク法との比較  
 147. 水間満郎(京大・原子炉): AMTEX '75 多良間

島におけるパイボール観測(Ⅲ)

148. 岸保勘三郎(東大・理): AMTEX 領域における運動量・顕熱輸送に関する一考察  
 149. 二宮洸三(気研・予報): 黒潮海域での著しい沈降をとまなう寒気の気団変質の熱収支

第2会場 積雲 座長 門 脇 俊一郎

237. 柳沢嘉親(北大・理): ドライアイス霧による室内実験—粘性係数の決定—  
 238. 北出武夫(気研・台風): 積雲対流群の特性(Ⅰ)  
 239. 米谷恒春(防災センター): 雲底より下層における気塊の運動を考慮したときの積雲対流  
 240. 吉崎正憲(東大・海洋研): 雲底が高い積雲の数値実験(3)  
 241. 椎野純一(気研・台風): 積雲対流における微物理過程と降水能率(1)  
 242. 藤吉康志・武田喬男(名大・水圏研): 発達から衰退期に至る積乱雲のエコー構造  
 243. 宮崎忠臣・国分里美(宇都宮大・工): 雷雲エコー頂高度の月別にみた差異について  
 244. 坂本洋和・遠藤辰雄・谷口 恭・柳沢嘉親・孫野長治(北大・理): 雲雲と冬期雷雲の電氣的構造について  
 245. 竹内利雄・仲野 貴・石川晴治(名大・空電研): スウェーデンで観測した落雷の極性について  
 246. 梶川正弘・木場和子(秋田大・教育): 霰の粒度分

布の観測

247. 塩月善晴(山口大・工業短大部): 最大粒径  $D_{max}$  を使った雨のパラメータダイアグラムについて

**第3会場 気候 座長 根本 順 吉**

337. 吉野正敏(筑波大・地球科学): 東アジアの小温暖期と小氷期
338. 星合 誠(愛知学院大・教養): 気温の全球的パターンの変動(序報)
339. 山元龍三郎(京大・理)・星合 誠(愛知学院大・教養)・岩嶋樹也(京大・理): 全球平均気温の最近の推移
340. 山下喜弘(気象衛星センター)・近藤 豊(名大・空電研)・岩坂泰信(名大・水圏研): Solar Proton Event と地球大気温度構造(II)
341. 荒井 康(気象庁・長期): 北半球 5日平均 500

mb 偏差パターンの分類

342. 井上 治郎・安成 哲三・横山 宏太郎(京大・防災研): ネパール・ヒマラヤの降水量分布
343. 渡辺 明(都立大・大学院): 関東地域収束・発散分布と局地効果
344. 泉 耕二・林 陽生(筑波大・水理実験センター): 地形風の実験的研究(1) 円錐模型実験と富士山周辺の流れについて
345. 中西 朗(新潟市立桃山小): 日本海沿岸やシベリヤ地方の気温と瓢湖の白鳥最大羽数について
346. 志賀正信(長崎海洋台)・真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工): 年輪から推定される Hale 周期の永年変化
347. 志賀正信(長崎海洋台)・真鍋大覚・佐藤洋子(九大・工): 震央上空に発生する進行波と定常波

**大会第3日(5月26日) 13時30分~17時00分**

**第1会場 境界層・気団変質 座長 二宮 洸 三**

150. 吉住禎夫(気研・予報): 黒潮海域上の寒気混合層内の風速分布に及ぼす傾圧性効果
151. 地迫良一(無鶴海洋台): プイロボットの観測資料による舞鶴湾の熱収支について
152. 浅井富雄・中村晃三(東大・海洋研): 気団変質過程の数値実験— $2\frac{1}{2}$ 次元モデル—(その1: 湿潤対流による混合層の発達)
153. L. クリシュナムルティ(東大・理): AMTEX '75 における東シナ海上の波動擾乱

**気象教育 座長 河村 武**

154. 島貫 陸(東京学芸大): 気象教育の目標について

\* 気象教育に関するミーティングをこのセッションに引き続いて当会場で行います。多数御参加ください。

**第2会場 熱帯気象・気象衛星 座長 山岬 正 紀**

248. 山崎孝治(気研・予報): 臨界雲水量と氷相を考慮した Arakawa 理論
249. 新田 勲(カリフォルニア大・大気科学教室): 大西洋熱帯収束帯における大規模場と積雲との相互応答 I. 大規模場の収支解析
250. 新田 勲(カリフォルニア大・大気科学教室): 大西洋熱帯収束帯における大規模場と積雲との相互応答 II. 積雲モデルの適用—特に moist down-

draft の役割

251. 山岬正紀(気研・台風): 台風における地表摩擦の役割について
252. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報): インド洋上空の赤道波(続2)
253. 安成哲三(京大・防災研): ネパール・ヒマラヤにおけるモンスーンじょう乱の解析(II)
254. 竹内昌明・菊池哲也・山岸照幸・加藤一靖(気象衛星センター): 雲頂高度算出に必要なパラメータの基礎調査
225. 浜田忠昭・田崎允一・斎藤 優(気象衛星センター): 静止気象衛星画像から有効な雲移動量を算出するための基礎調査—追跡に適する雲パターン—
256. 島田健司・橋本昇三(気象衛星センター): 静止気象衛星画像から得られた風計算結果の検討

**第3会場 測器・観測 座長 佐橋 謙**

348. 佐橋 謙(岡山大・教育): アナログ手法による乾湿計からの水蒸気圧の計算回路(その一)
349. 佐橋 謙(岡山大・教育): アナログ手法による乾湿計からの水蒸気圧の計算回路(その二)
350. 気象研大気境界層グループ 発表者 花房龍男(気研・物理): 気象観測塔に設置した大気乱流特性観測装置について
351. 塚本 修(京大・防災研): 乱流計測器の国際比較



## 観測 (I) —ITCE '76—

352. 吉留英二・青柳二郎(気研・衛星)・工藤純二(東海大): オメガ電波の位相変動特性
353. 吉留英二・青柳二郎(気研・衛星): オメガ高層風観測装置の改良 (II)
354. 落合弘明(鳥羽商船高専)・土屋 清(宇宙開発事業団): LANDSAT による MSS データのデジタル解析
355. 藤田慎一・西宮 昌・千秋鋭夫(電中研)・中村邦雄(松下技研): 大気放射測定による気温鉛直分布の連続観測手法 (I)
-